



瀬谷第一地区連合町内会

瀬谷区連合町内会
自治会連絡会
わが町探訪

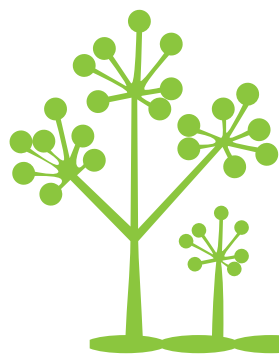


主な区域

中央、瀬谷3丁目・4丁目
本郷4丁目

地域とつながる 地域に根づく

自分の地域をもっと知ってみませんか？
いざという時に心通う助け合いができるように——。



移りゆく街並み

開発で変わる瀬谷第一地区

瀬谷駅の南北に広がる瀬谷第一地区。区内でも最大規模の世帯数を誇る瀬谷第四町内会をはじめ、5自治会町内会・約2400世帯が住む。

かつては瀬谷駅南口だけでも6つの商店街を持つ商業の町で、その周辺には田畑ののどかな風景が広がっていた。

現在は環状四号線の整備や駅北口の開発が進み、周辺はマンションや住宅、店舗や商業施設が建ち並ぶ居住地域に。戸建て住宅には高齢世帯も多いが、駅付近の新築マンションには、若い世代も多く住む。

地域には、平成22年に創立120周年を迎えた瀬谷小学校、平成19年に創立60周年を迎えた瀬谷中学校と、歴史ある学校が。瀬谷中学校は災害時の地域防災拠点にもなっている。



南口にビル構想

瀬谷駅南口では、再開発の構想も進む。サンロード商店街の場所に住宅や商業施設の複合ビル建設を計画している。平成23年7月には、同商店街付近の再開発を進めるため、周辺住民や商店主、地権者などが準備組合を結成した。



「さりげなく見つめて」

高齢者の見守り



「ご近所同士、顔見知りの関係づくりをしよう」——。同地区が高齢者見守り活動として行っているのが「WAT(ワット)」だ。

Wはウォッチング(注意して見る)、Aはアクション(行動)、Tはチーム(組)。「じろじろ見られるのは不快に思うはず。気になる人がいたら、ほのぼのとした気持ちで気かけ、見守っていけたら」と、町内会長や民生委員、ボランティアの人らがグループを組み、地域を7ブロックに分け、ブロックごとで見守り活動をする。

近所で会った時のあいさつや声かけのほか、新聞販売店や地域の店舗などと情報交換し、郵便受けや室内の電気の付け放しなどがないかを確認。これまでも大事には至らなかったが、「新聞が何日分も積み重なっている」など、地域の人を気にかける報告があったという。

高齢者同士の元気づくりと交流も。瀬谷4丁目のはらっぱ公園では平日の朝8時から、健康体操が行われている。

はらっぱに集まり、音楽に合わせて簡単なストレッチや運動。当初は近隣住民だけだったが、現在では地区外から訪れる人も。毎日顔を合わせることで、元気を確認し合っている。



地域の自治会・町内会に加入しませんか？
問い合わせ先は、瀬谷区役所地域振興課 TEL367-5691



自治会が子どもを守る

下校時、災害時に安全確認

瀬谷第一地区の住民が中心となって、瀬谷小学校の児童の下校時間に同校西門付近に立って、子どもたちを見守っている。

普段の活動だけでなく、瀬谷小学校、瀬谷中学校と協力し、災害が起きた時の子どもたちを地域で見守る体制も図る。

連合町内会のメンバーは、「学校から帰宅しても両親が仕事で出かけている家庭もある。災害時に家に子どもが一人きりでも、安全確認できる体制をつくりたい」とし、今後、自治会のネットワークを生かして災害時の子どもの安全確認や帰宅の見守りなどを行っていく予定だ。

新たに引っ越してきた家族は自治会に加入しない世帯も多く、未加入世帯の自治会への参加と、状況把握も地区の課題だ。「今後は災害時に備え、自治会のメンバーが近所の子どもの安全を確認しに訪問したり、親に代わって子どもを学校から安全に自宅に送り届ける役目をするなど、仕組みを作っていきたいと話している。



今も残る鷹狩所跡



江戸時代の鷹見塚

環状四号線の高架下、瀬谷中学校から下瀬谷方面に向かって踏切を抜けた一角、小さな塚を囲むように青々と木が生い茂る。

「世野の原の鷹見塚」という江戸時代の史跡。相模国の鷹狩指揮所の1つとして築かれた。生類あわれみの令で一時狩りを禁止されたもののその後復活し、幕末まで使われた。